宍粟藩立藩四〇〇年①

「黒田官兵衛から宍粟藩立藩へ」

昨年度、宍粟市では、「官兵衛飛躍の地 宍粟」のテーマのもとに播磨の生んだ戦国武将の雄、黒田官兵衛孝高に関する講演会や企画展示など、官民を挙げてさまざまな取組が行われました。

本年、平成二十七年（２０１５）は、『播磨国風土記』成立一三〇〇年、宍粟藩立藩四〇〇年、戦後七〇年、阪神淡路大震災から二〇年、そして市制十周年と、宍粟市にとって多くの意味で歴史的に記念すべき年となっています。とりわけ元和元年（１６１５）、池田輝澄による宍粟藩立藩は、宍粟の近世の本格的な幕開け、そして現在の宍粟市のまちづくりにつながる重要な出来事と言うことができるでしょう。

江戸時代の山崎城下町の変遷については、『広報しそう』第１０３～１０５号の本欄でも取り上げられているので、ここでは戦国期から近世への移り変わりについて簡単に振り返っておくことにします。

▲池田氏の家紋「揚羽蝶」の軒丸瓦（山崎歴史郷土館蔵）

天正八年（１５８０）、羽柴（豊臣）秀吉の攻撃による長水城の落城によって、宍粟の中世は終焉を迎えることとなりました。その後、宍粟の地は一時、神子田（みこだ）半左衛門が領有し、天正十二年（１５８４）には、黒田官兵衛が「宍粟郡一職」を与えられ、後の福岡五十二万石へと羽ばたくための「飛躍の地」となったことは広く知られるようになったとおりです。

天正十五年（１５８７）に、黒田官兵衛が豊前国中津へ転じた後、龍野城主であった木下勝俊が宍粟郡を支配し、「山崎村において新町を申し付け」、山崎の町場を発展させる礎としました。さらに慶長五年（１６００）の関ヶ原の戦いの功績によって、播磨五十二万石の姫路城主となった池田輝政が、「山田山崎町中」にあてて市日を定める書状を出して、商業の発展を促しました。この池田輝政の四男輝澄が元和元年（１６１５）、宍粟郡三万八千石を与えられて宍粟藩が成立することとなりました。寛永八年（１６３１）には、佐用郡を合わせて六万三千石となりましたが、同十五年（１６３８）輝澄が江戸在住中に起こった家中騒動の責任を問われ、同十七年（１６４０）、輝澄は鳥取藩にお預け、因幡国鹿野に蟄居を命じられてしまいました。

▲城下町の面影を残す西町界隈

その後、宍粟（山崎）藩は、松井（松平）康映（やすてる）、池田恒元、政周、恒行と藩主が移り変り、延宝七年（１６７９）、本多忠英が大和郡山から一万石で入封して以降は、本多氏の支配が続き、八代忠鄰（ただちか）の時に明治維新を迎えることとなりました。

本年度の「宍粟 歴史 再発見」では、宍粟藩立藩四〇〇年にちなんで、江戸時代の宍粟に関するさまざまな話題を提供していく予定にしています。また、歴史パンフレットの発行やミニ企画展の開催、さらには、市制十周年を記念するさまざまなイベントが企画されています。市民の皆さんとともに、宍粟市の新たな歴史の第一歩を踏み出して行きたいと思います。

（社会教育課 田路正幸）

お知らせ 宍粟市の面積が変わりました！ 658.6 ㎢ ⇒ 658.54 ㎢

計測精度の向上により、0.04 平方キロメートル（4ヘクタール）修正されました。

新しい面積は昨年 10 月1日時点の「全国都道府県市町村別面積調」の結果として、3月6日に国土地理院から発表されました。

編集後記

平成 27 年度がスタートしました。宍粟市発足 10 周年の節目の年です。10 周年を祝う行事や協賛イベントがたくさん計画されているので、みんなで盛り上げていきましょう！▶ 安 も節目を迎えます。広報担当を離れることになりました。宍粟市の歴史の半分、5年間お世話になりました。毎月発行の広報紙づくりは、1か月がアッという間に過ぎて、半年、1年もアッという間…、そして気がつけば5年でした。▶記事を求めて“東奔西走”“夜討ち朝駆け”の5年間。その中でも、いちばんの思い出は、取材先でたくさんの人と出会い、お世話になったことです。本当にありがとうございました。後任は 宮 が務めます。どうぞよろしくお願いします。 安

広報しそう 4月号
平成27年 4 月15日発行（121号）
発行／宍粟市 編集／企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6
☎0790-63-3000（代） FAX 0790-63-3061（代） info@city.shiso.lg.jp http://www.city.shiso.lg.jp

VEGETABLE OIL INK この広報紙は環境保護のため、植物油インキと古紙再生紙を使用しています。